

第 77 回歴史探訪の会 「行基が建立した仏塔と遺蹟を巡る」

日時： 令和 3 年 10 月 20 日(水曜)

場所： 堺市・中区

案内人： 森 尚夫

コース： 泉北高速鉄道・深井駅～野々宮神社～史跡土塔～(昼食)～菰池～深井駅 約4Km

コロナ感染症の影響で約 1 年ぶりの例会開催となった。新たに入会された方 3 名を含めて計 24 名が参加。少し風があって日陰ではやや肌寒い天候であったが、久しぶりの再会で会員同士互いの近況等を話しあいながら、歩く距離はいつもよりちょっと短めのコースを巡った。



深井駅前広場にて

土塔は堺出身の奈良時代の僧、行基が建立したとされる四十九院の 1 つ大野寺の仏塔です。「十三重土塔」は発掘調査によって土を盛り上げた一辺 53.1m、高さ 8.6m以上の塔で「神亀四年」と記された瓦が出土しています。現在の姿は全体を盛り土で保護し、十二層まで復元したものです。土塔の近くには、瓦を焼いた窯跡が 2 基見つかっています。また、少し離れたところには、行基が天平 741 年以前に作ったとされる蒲江池(こもえいけ)ではないかと考えられる、「菰池」というため池もあります。行基は生涯、通称四十九院と呼ばれる 寺院建立や、架橋、ため池、布施尾(宿泊施設)建設などの社会事業を多数行っている。この発掘調査で明らかになった事業を紹介し、考察できることを探ってみます。

1) 野々宮神社

創建は不詳だが約 400 年前と言われる。和泉国大鳥郡深井荘野々宮香林寺の略縁起によると、天正年間に細川氏の兵火に遭い、春日社領であった奥山(現深井清水町)に転座し、再建されたとされる。明治 4 年(1871 年)までは中村(現深井中町)の香林寺(行基建立 49 院の 1 院)と併存していたが、神仏分離で同寺と離れ、翌 5 年に郷社に列した。1 万平方メートルの境内には、稲荷社、春日社、八幡社、巖島社があり、明治 42 年に畑山の愛宕神社、東山の巖島神社、百済(現北条)の東山神社、八幡神社、檜葉の八坂神社、高揚(現深井北町)の菅原神社、八田(現東八田)の菅原神社を合祀した。

神紋は八重山桜であり、野々宮神社に宮入する氏子各町はこの桜紋や桜紋を基調とした意匠を使用している。



2) 土塔



鎌倉時代に成立した行基の伝記「行基年譜」によると、727年(神亀4年)行基によって大野寺が創建され、その際に土塔も築かれたとされている。大野寺は行基が建立した四十九院の一に数えられている。周辺からは土塔築造当時に葺かれていたとみられる文字瓦が多数出土し、瓦の寄進者とみられる人名が刻まれている。文字瓦のうちに神亀4年銘を有するものがあり、土塔は行基の在世中から遅くとも8世紀後半に築造されたと考えられている。大野寺は室町時代に一時中絶したが、江戸時代になって土塔の前に再興された。

- 土塔全体に瓦が葺かれているが、発掘された創建当時の瓦には文字を記したものが約1,300枚発見された。そしてその内容は大半が人名であった
- 人名を刻んだ人々は、行基とともにこの土塔を建立した「知識」と言われる者と考えられている。

※『知識』とは

- ・仏教用語で、知人、朋友の意であるが、転じて人を仏道に導く識者の意となり、さらに仏道に結縁して造寺、造仏、写経、法会などのために財物などを寄進する行為、もしくはそうした行為を行う人々を意味するようになった。
- ・寄進される財物を知識物といい、集団的に知識を行うことを知識結といった。
- ・知識結は奈良時代に盛んに行われた民間仏教の展開の場となった。
- ・行基の社会事業も広い意味での知識とみなすことができる。
- ・中世以降は、勸進、普請などの用語が用いられるようになった。

- これらの人々は、この人名から判断して、僧尼だけでなく、庶民から氏族などの身分を超え、また男女を問わない広範囲に及ぶことがわかった
- 当時の寺院が、朝廷や有力豪族が建立することがあっても、このように一般民衆にまでの広範囲の人々の寄進によって建立されることは考えられないことであった。そういう時代背景を考えれば、この土塔は行基が如何に一般民衆から氏族、豪族に渡る広範囲の人々の支持を集めていたか、そして仏教がどのように民衆までに信仰されていったのかを知る貴重な史料である。

以下は復元された現在の土塔の状況です。平成16～20年に行われた整備工事によって現在は「土塔公園」として整備されている。



復元された土塔の全体



全面に瓦が葺かれている。基壇の上には12層の壇がピラミッド状に土で築かれ、それを全て瓦で覆っている



基壇部分も周囲を瓦で積み上げた構造となっている



瓦はご覧の通り各段の上だけでなく縦面にも葺き風雨から土壇を守る構造となっている



復元「土塔」の横には復元模型が展示されている



最上壇にあった八角堂模型

説明文には 13 層目には饅頭型の基壇の上に八角形
の木造建物を復元したとある



土塔の傍にある大野寺

大野寺正門前の説明文には、「大野寺は、奈良時代の高僧・行基が畿内に建立した四十九院の一つで、「行基年譜」によれば、行基 60 歳の年、神亀 4 年 (727) に創建されたとある。現在は宝形作りの本堂と門、庫裡を残すのみであるが、かつては本堂南東の土塔や、さらに南東の大門池を含むかなり大規模な寺院であったと推定されている」とあった。また鎌倉時代に作成された「行基菩薩行状絵伝」に大野寺本堂、門とともに「十三重土塔」と記載された土塔が描かれていることから、大野寺建立に際しての仏塔として土塔が築かれたことが明らかになっている。



2) 菰池(薦江池)

菰池(こもいけ)は、大阪府堺市中区土塔町にあるため池である。奈良時代に行基が農業(灌漑)用水を貯めるために、谷をせき止めて作った池とされている。菰池の名称の由来は池の周りに菰の木が多数生えていたためだが、現在は一本も生えていない。

歴史

- 1970年代 - 隣の「下池」と菰池の間に東西に伸びる泉北高速鉄道(高架線路)と道路が建設される。
- 1982年 - 菰池に生えているホテイアオイという水草が、池全体を覆い尽くす。
- 1983年 - ホテイアオイが原因で、池の底にヘドロが蓄積され、悪臭と小バエが発生したため、市民の要求により堺市がヘドロを除去する工事を開始。



土塔の前にて